

大会名称: 第27回ユニバーシアード競技大会 バasketボール競技(男子)

開催場所: Basket Hall2

試合区分: No. 116 男子 予選ラウンド第2戦 コミッショナー:

期 日: 2013(H25)年7月8日(月)

主審: ZAPOLSKI Dariusz (POL)

開始時間: 13:00

副審: VETROV Evgeny (RUS) / RACYS Saulius (LTU)

終了時間: 14:30

ルーマニア (通算2勝0敗)	○ 77	20 -1st- 9 18 -2nd- 13 19 -3rd- 18 20 -4th- 17 -OT1- -OT2- -OT3-	● 57	日本 (通算0勝2敗)
-------------------	---------	--	---------	----------------

「第27回ユニバーシアード競技大会」男子は第2日目。男子ユニバーシアード日本代表チームの2戦目の相手は2m台の選手を5名擁するルーマニア。序盤、流れを掴んだのは日本。#6宇都のファストブレイク、#11野本の3Pシュートでリードを奪う。しかしすぐさまルーマニアも#4Petrisorの3Pシュート、#14Gutoaiaのダンクシュートで得点を重ね、優位に立つ。すると日本の得点が止まり、5分間無得点。9-20と11点差をつけられて第1ピリオドを終了。第2ピリオド以降、追いかける形で試合が進む日本は、得点を挙げても相手の得点を抑えきれず、10点差の壁を破ることが出来ない。メンバー交代を繰り返し、全総力をあげて粘る日本だったが、反撃のチャンスを見い出せず、タイムアップ。57-77と20点差で敗れた。

第1ピリオド、ルーマニア#13TOROKに先制点を許すも、日本は#6宇都のファストブレイク、#11野本の3Pシュートでリードを奪う。だが残り4分を切り、ルーマニアは#4Petrisorの3Pシュート、#14Gutoaiaのダンクシュートで得点を重ね、優位に試合を進める。その間、日本はターンオーバーが続き、思うように自分たちのバスケットが出来ず苦しい展開。その間、ルーマニアはインサイドで果敢に攻め、加点していく。結局、日本は5分間無得点と重いムードが続き、9-20と11点ビハインドで終了。

第2ピリオド、ルーマニアは#7CORPODEAN、#15Tibirnaを中心に得点を挙げ、リードを伸ばす。一方の日本は、流れを変えようと交代を繰り返すものの、思うように点差は縮まらず、我慢の時間帯となる。残り3分を切り、17-30と追いかける日本は、#11野本、#6宇都が積極的にシュートを狙うが決めきれず、逆にルーマニア#5Rosu、#11TOTHに加点される。最後、日本#6宇都のシュートががブザービーターとなり、22-38で前半を折り返す。

第3ピリオド、立ち上がり、日本は激しいディフェンスから速攻で#13坂東がシュートを決めると、#5永吉のフリースロー2本、#7藤井のバスケットカウントによる3得点の活躍で、31-42と追い上げる。その後は一進一退の攻防が続き、13点差前後でゲームが進む。しかし残り4分を切り、日本のシュートの決定率が欠けると、ルーマニアは速い展開で得点を重ね、一気に畳み掛ける。終盤、日本は#4中東がいい働きを見せるも点差は縮まらず、40-57で最終ピリオドへ。

第4ピリオド、開始早々、日本は#8河上が得点を挙げて好スタートを切るも、相手の得点を抑えられず、点の取り合いとなる。その後、日本は#11野本の3Pシュートで一時11点差まで詰め寄るも、そこから点差を1ケタに出来ず、時間が過ぎていく。さらには、残り3分半、チームファウルが5つ目に達した日本は、相手にファウルからフリースローのチャンスを与え、じわじわと点差が開いていく。最終的に57-77、日本は開幕2連敗となった。

予選ラウンド第3戦、日本は7月9日(火) 12:30(日本時間17:30)よりフィリピンと対戦する。